

平成 21 年 5 月 11 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520503

研究課題名（和文）九州における織豊期城郭に関する研究～旧族大名大友氏と小早川氏の比較を通して

研究課題名（英文）Research of castle of Shokuho(織豊) period in Kyushu

研究代表者

木島孝之（KIJIMA TAKASHI）

九州大学・大学院人間環境学研究院・助教

研究者番号：20304850

研究分野：

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：城郭，縄張り，織豊期，九州，旧族大名，高崎山城，大友氏，小早川氏

## 1. 研究計画の概要

同じ旧族大名の出自を持ちながら豊臣政権下における政治的環境を大きく異にした大友氏と小早川氏について、その居城（高崎山城、立花山城・名島城）の縄張りの調査を行う。そして、掌握した縄張りの構造の分析から、一、九州における織豊系縄張りの受容の形態と過程、二、戦国大名と近世大名権力の軍事構造の質的差異、三、両氏の豊臣大名化における差異を具体的に考察し解明する。つまり、城郭の縄張りという「物」史料から豊臣政権による九州経営の内実の一端を具体的かつ視覚的に浮き彫りにすることを目的とする。

## 2. 研究の進捗状況

名島城の地籍図・古絵図と最近の発掘調査で出土した石垣・瓦を基に城の旧態を推定し、文献史料の分析結果を勘案して築城の意味を考察した。成果は次のとおりである。

(1)立花山城と同じく、最先端技術で構された典型的な織豊系城郭であり、豊臣政権の強い要求の下に小早川隆景が構築した。

(2)立花山城の大改修と一連で、朝鮮出兵の準備（兵站基地である筑前さらに九州の静謐に向けた「鎮西城」の整備、渡海軍の主力に予定する旧族大名小早川・毛利氏の軍事技術の「上風<織豊流>」への改革）の一環であった。

(3)城郭部が本格的な織豊系城郭であったと推定されるのに相反して、城下町は小規模な一本街村状の可能性が高く、大封大名にしては極めて貧相である。そこには、朝鮮出兵の主力兵站基地に予定する博多町の復興・整備という国家的戦略の前に一大名の領主権が飲み込まれたという特殊事情が考えられる。

研究の中核の作業となる高崎山城跡の遺構踏査は九割程度を終え、次の点を確認した。

(1)変則的で歪んだ形態ながら、枡形虎口や横矢懸り、櫓台など織豊系縄張り技術の影響を受けた改修が、新規本丸部分だけではなく旧本丸周りや外縁の防塁型石塁、南東先端部腰曲輪の虎口部分など広範囲に及ぶ。特に計7基の櫓台にはサイズを規格する意識がみられる（内、4基は方1間半、3基は方二間半）。

(2)このような改修の中にあって、石垣の技術自体は、粗割石を乱雑に積み上げる戦国

末期の在り系技術を継承したものである。

上記の点から、大友氏は高崎山城改修において、尾根と縁辺の城道に沿って曲輪を単調に並べる戦国期以来の居城の姿を織豊系城郭のスタイルに改変しようとする強い意欲を持っていたこと、その際、個別の伝統的築城技術の改革に優先して、とにかく新体制の平面プラン(織豊系縄張り)を導入し実践することに関心が注がれたことを推定した。ここに、秒読みとなった朝鮮出兵を前に、豊臣政権の過剰な期待を受けて渡海軍の主力に予定され政権の強力な挺入れの下に落伍を許されぬかたちで「上風」(豊臣大名化)を強いられた小早川氏とは対照的に、豊薩戦の痛手も癒えぬ中、「上風」への対応を自助努力でもって早急に迫られた旧族居付大名大友氏の切迫した苦悶の姿が看取できる見通しを得た。また昨今、戦国後期から豊臣政権期の小早川氏の拠点が府内から臼杵に移転されていたとする見解が脚光を浴びているが、高崎山城跡の踏査結果に鑑みれば、これとは真逆の結果が得られそうである。つまり、大友氏は豊臣政権への参画を期に織豊系縄張り技術を意識しつつ高崎山城を改修し、当城を核に膝下の府内で豊臣大名としての再スタートを切ろうとしていた可能性が高いと考える。

### 3. 現在までの達成度

やや遅れている。

(理由)

高崎山城跡遺構の実測作業がやや遅れている。想定外の家庭の事情(長女出産に係る育児。父親の入院・死去に係る諸事)に天候や遺跡の環境(風倒木の多さ)、学務が重なって日程の確保が思うに任せなかった。

### 4. 今後の研究の推進方策

既に結論の見通しは十分に得ているので、

当面の問題として高崎山城跡の実測の遅れを11月末までに回復することを優先する。それ以外は大幅な変更は生じない予定である。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

木島孝之、「名島城の縄張りからなにがわかるのか 朝鮮出兵を通じた小早川・毛利氏の近世大名への道程」、『名島城の歴史と文化シンポジウム』、九州学研究会・九州考古学会・北部九州城郭研究会共催、2009年2月22日、福岡市博物館大講堂

〔図書〕(計1件)

木島孝之、「織田・豊臣の城を歩く-九州の城-名島城、立花山城、肥前名護屋城、南関城、宇土城、角牟礼城、岸嶽城」、『歴史読本』特集 織田・豊臣の城を歩く 2008年5月号、182-195頁、新人物往来社

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕